

1960年代における小学校中学年向け音楽科学校放送 番組の変遷について：NHK「たのしい教室」「みんなの音楽」より

佐藤，慶治
鹿児島国際大学福祉社会学部：准教授

<https://doi.org/10.15017/7183297>

出版情報：総合文化学論輯. 20, pp.88-104, 2024-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン：

権利関係：Copyright (C) 総合文化学研究所 all rights reserved. この論輯の全ての文章・画像の権利は、総合文化学研究所に属します。無断での使用・転載を禁止いたします。



〔特集：小学校音楽科に関する NHK 学校放送番組の放送内容研究〕

1960 年代における小学校中学年向け音楽科学校放送番組の 変遷について —NHK「たのしい教室」「みんなの音楽」より—

佐藤 慶治

1, 研究の目的、方法と番組の概要

本論考においては、1959 年度から 61 年度まで NHK 教育にて放送が行われた「たのしい教室(音楽)」、および 62 年度から 73 年度まで放送が行われた「みんなの音楽」を題材とし、1960 年代から 70 年代初頭における小学校中学年の音楽科に関する NHK 学校放送の内容変遷を分析する。学校放送は NHK 等のテレビ局が学校教育用に制作した教育番組の一種であり、各時代における文科省学習指導要領の内容を反映する形で制作された番組である。本論考においては、二つの番組における番組内容の変遷をたどることにより、当時の学校放送の実態や、またどのような形で学習指導要領が反映されていたかについて考察することを目的としたい。なお、本研究は科研費課題「小学校音楽科における教育番組・児童番組の利用に関する総合的研究」(基盤 B、代表：佐藤慶治)の一環に位置づけられる。

「たのしい教室」「みんなの音楽」の二つの番組については、NHK アーカイブスの HP において、以下のように記述されている。

たのしい教室¹

放送年度：1959～1961 年度

小学校中学年向けの「音楽・図画工作」番組。前年度まで放送の『音楽あそびに』（1957～1958）に、新たに図画工作を加えたシリーズ。図画工作は絵の描き方やものの作り方など、映像で感覚的に訴えることで、学校現場の図画工作教育活動に役立った。

みんなの音楽²

放送年度：1962～1973 年度

小学校中学年向けの音楽番組。前年度まで隔週で放送していた『たのしい教室』（1959～1961）の内容を音楽に特化して改題。毎週の放送とした。

また、「みんなの音楽」については同 HP で 4 分ほどの動画が見られるが、司会進行役の女性(松村幸子)がピアノやオルガン等の楽器や楽曲を紹介する形式の番組である。更に「NHK クロニクル」³での番組表検索では、各回における放送日・時間、出演者、副題がわ

かる(例：1962年04月14(土)午前10:00～午前10:20 小学校中学年「みんなの音楽」「春の歌」大和淳二出演)。ただし、NHKのHP等ではこれ以上の情報を得ることができず、またDVD等も発売されていないため、上記二つの番組について研究を実施することは、資料収集の面から非常に困難といえる。二つの番組を扱った研究論文も管見の限りでは存在していない。

関連の先行研究として、佐藤〔2023〕では二つの番組と同時期である1955年度から73年度にかけてNHK総合にて放送が行われた小学校低学年対象の音楽科に関する学校放送「うたいましょ ききましょ」の内容分析を行っている。研究の方法としては、音楽之友社より刊行されている『教育音楽 小学版』（毎月1冊刊行）の1959～73年にかけてのコーナー「今月の学校放送（1963年度以降は『〇月の学校放送』という名称）」に掲載されている情報をまとめ、番組内容の一覧表を作成した上で、当時の学習指導要領（音楽）の記述内容との比較を行った。結論として、当時の「うたいましょ ききましょ」は、年度を通じてその時期における学習指導要領の目的を反映した番組制作を行っていたということが判明している。本論考においても同じ資料を用い、やはり情報の一覧表を作成する形で番組内容変遷の分析へとつなげたい。

ただし、上記先行研究では扱うことができていなかったが、『NHK テレビジョン学校放送』という毎年度の各学期に刊行されている学校放送のテキストが存在する。「たのしい教室」「みんなの音楽」放送時期の学校放送についての情報を掲載した『NHK テレビジョン学校放送』小学校中学年版について、昭和40年度1学期分のみ国立国会図書館に所蔵があることが判明した（「CiNii」や「カーリル」等のサイトで検索しても、大学図書館や公立図書館など他図書館には所蔵がない状況である）。少し長いが、「みんなの音楽」の番組情報について引用掲載したい。⁴

「みんなの音楽」金曜日・午後1:20～1:40、土曜日・午前10:00～10:20

番組のねらい

この番組は、低学年対象の「うたいましょ、ききましょ」の発展的な段階として、3,4年生の中学年の児童をその対象に構成されているものである。そして、高学年児童対象の「音楽教室」とともに一貫した系統性をもって編成されている番組といえる。この「みんなの音楽」は中学年児童の音楽的な発達段階をふまえ、文部省の学習指導要領に示されている内容を、より効果的に、能率的に指導していくことをねらい、視聴覚的方法による強力なテレビの機能を十分に生かしていく。一本一本の番組構成のねらいとしては、音楽学習の興味と関心をもち上げ、地域差、児童の能力差などからくる音楽的な抵抗をできるだけ除き、自然に放送内容にとけこんでいけるような配慮を払っている。番組の内容内容を構成している基本的な線は、年間を通して学習指導要領に示さ

れた基準的なものはすべて包含されるように考慮されている。例えば、鑑賞について考えてみると共通教材の3曲はもちろん、年間8曲以上という必修曲数についても、それ以上のものが計画されているし、同じことが歌唱についても器楽についても網羅されている。(中略)

付記

この番組は、次の方がたのご協力によって、企画・構成されている。

番組委員 (50 音順)

東京都杉並区立西田小学校教諭 井沼正行

横浜国立大学付属鎌倉小学校教諭 小原昭

文部省教科書調査官 浜野政雄

お茶の水女子大学付属小学校教諭 古江綾子

文部省教科調査官 真篠 将

東京学芸大学付属世田谷小学校教諭 大和淳二

東京都台東区立富士小学校教諭 吉田政次

なお、番組に出演して指導してくださるのは、東京学芸大学付属世田谷小学校教諭 大和淳二氏である。

以上より、同番組は児童の「発達段階」を踏まえて「文部省の学習指導要領に示されている内容を、より効果的に、能率的に指導」することをねらいとし、「年間を通して学習指導要領に示された基準的なものはすべて包含」している番組内容であるということがいえる。また、企画・構成の協力には2名の文部省教科調査官が加わっており、そのような面からも同番組の内容構成においては、学習指導要領内容の効率的な学習ということが念頭に置かれているとみなすことができるだろう。

2、『教育音楽』の前書きにみる1960年代におけるテレビ学校放送の変遷

本節では、まず1959～73年の『教育音楽 小学版』より、「今月の学校放送」における前書き部分より、本研究に関連する部分を抽出し、以下に表としてまとめたい。佐藤〔2023〕より再引用となる部分もあるが、二つの番組に関する記述の部分は初出引用が多い。ただし、このコーナーにおける前書きは書かれておらず、各番組の情報のみ掲載されている月も多い（前書きは年度初めの4月に書かれていることが多い）。

年月/執筆 頁数	内容抜粋
1960/4、竹	昭和35年度は、NHKのラジオ学校放送が、全国放送を開始してから25年目、テレビ学

内功 58, 59	校放送が始まってから 8 年目、又 NHK 教育テレビによる学校放送も 2 年目を迎えました。既に改訂指導要領の発表もあり、NHK では、昨年始めから慎重な態度で、35 年度番組の編成にあたり、学校放送の一題飛躍の年に備えてきました。改訂指導要領による学校教育内容の移り変りに、学校放送番組も即応できるように編成され、放送時刻、種類、内容など大幅な改善が行われたわけです。(中略)この番組(たのしい教室音楽)は、音楽の鑑賞及び表現活動を視聴覚的方法により有機的に展開して、中学年児童の音楽的感覚を一そうやしなうことをねらいとしている。
1962/4、 竹内功 100, 101	(前略)特にテレビの音楽番組は、従来低学年、中学年、高学年とも隔週に放送していたのが、今年度からは、各シリーズとも毎週とりあげることとなった。「うたいましようききましよう」(低学年)、「みんなの音楽」(中学年)、「音楽教室」(高学年)がそれで、テレビの特性を生かした番組内容を編成している。(中略)みんなの音楽(中学年)三年対象と四年対象のものを隔週で取り上げ、楽器の種類や、楽曲の形式、楽譜の提示などを積極的に行なう。
1963/4、 竹内功 100, 101	(前略)テレビ学校放送番組においてはごく一部を除いては、特に時間増や、シリーズの差し替えを行わず、もっぱら、昨年度における反省にもとづいて、番組の質的向上に努力し、テレビの特性をじゅうぶん生かした番組内容を編成していく方針である。
1964/4、 小島明 94, 95	(前略)NHK の学校放送も四月からは大幅に放送時間、放送種目等を拡充整備して放送し、皆様によりよく利用して頂けるよう努力いたしました。特にテレビの音楽番組では、従来から非常にご要望の多かった再放送を全番組に実施し、各学校の時間割の中で最も都合のよい時間に利用して頂くことにいたしました(後略)
1965/4、 小島明 102, 103	(前略)テレビ、ラジオも 4 月からは出演の先生が大幅に変わって、清新の気をもってよりよい番組を教室にお届けすべく、係一同張切っております(中略)新学期から担当の先生方は次の通りです。・うたいましようききましよう(テレビ)古江綾子(お茶の水女子大学附属小学校教諭)新・みんなの音楽(テレビ)大和淳二(東京学芸大付属世田谷小学校教諭)・音楽教室(テレビ)小島琢磨(千葉大学教育学部助教授)(後略)
1966/4、 小島明 44, 45	(前略)今年度は出演の先生方や番組の配置は大きく変わりませんが、内容を充実させて、先生方が教室で大いに利用して頂くようによい番組を制作することを重点としていきたいと思います。
1967/4、 小島明 102, 103	(前略)今年度はテレビ中学年番組「みんなの音楽」(中略)など、一部の番組のレギュラー出演者に新人を起用し、また演出面でも数々の新しい試みを企画する(中略)みんなの音楽 この番組は小学校中学年児童を対象に、統合的音楽学習を通して児童に望ましい音楽的経験が蓄積、構築されることによって、音楽的感覚の芽ばえを助長しようとするもので、題材の設定は、低学年の生活経験的なまとまりによるものの上に、やや音楽的なまとまりを加味し、高学年の「音楽教室」への発展を図るもの。本年度は特に「世界のこどもの歌めぐり」また創作面では「くらしのリズム」などの新しいシリーズを加えました。
1968/4、 小島明 106, 107	(前略)新学期から担当される先生方は次の通りです。[テレビ]うたいましようききましよう(小学校低学年)お茶の水女子大学附属小学校教諭 古江綾子 みんなの音楽(小学校中学年)作曲家 藤井凡大 音楽教室(小学校高学年)東邦学園大学音楽学部教授 石井敏(新)(後略)
1969/4、 小島明 60, 61	(前略)文部省では現在学習指導要領の改訂作業を行っており、昭和 46 年度には小学校が新しい要領に基づく教育をスタートさせることになっています。このような教育界の動きに即応し、教育現場からのご要望に応じて、NHK では、昭和 44 年度より、学校放送番組の放送時間帯に大幅な変更を加えることになりました。
1969/10、 小島明 48, 49	(前略)46 年度から新しい指導要領が実施されますが、ひととおり見てみますと改訂にともない、各教科ごとにそれぞれ違うニュアンスが見られます。(中略)音楽科改訂のもっとも大きな点は、学習領域の内容が従来は鑑賞と表現の二つに分かれていたものが、新指導要領では基礎・鑑賞・表現の三つになったことでありましょう。(中略)NHK の学校放送番組では、「改訂」の内容が発表される以前からすでに番組制作の基本態度として確実に子どもの身につけさせるべきものは何であるかについて研究を重ねて参りました。以下各番組ごとに、新指導要領の方向と番組内容との関係について説明します。(中略)「みんなの音楽」この番組は中学年児童を対象に、総合的な音楽学習をとおして児童の音楽的感覚をのばそうとするものですが、個々の番組において、複学年対象番組としての制約がかなりあることは否定できません。この点から、現行指導要領と新指導

	要領の各面を比較検討してみると、歌唱(輪唱・合唱を含め)、器楽(笛)において、両学年の差は縮まり、より番組制作は容易になったといえます
1970/4、 小崎俊彦 104, 105	(前略)NHK の学校放送音楽番組は、昨年度から新学習指導要領への移行を考慮して番組を制作しておりますが、今年度はこの方向をさらに一歩進めてまいりたいと思います。移行措置の基準としては、①現行の指導要領よりやさしくなるものについては、早急に移行を計り、新指導要領に準拠する、②現行の指導要領より難しくなるものについてはじょじょに移行する、の二点です。(後略、担当者の変更はなし)
1971/4、 竹内功 54, 55	(前略)NHK の学校放送に対する教育現場からの期待も年ごとに大きなものになり、創造力を高め、人格の陶冶を促し、豊かな人間を育てるための教育番組がこれまで以上に切実な要望として求められています。(中略)昭和 46 年度の学校放送番組は、このような考えに立って、それぞれの番組を再度、テレビ・ラジオの機能にあわせて検討し、内容の改善につとめることにしました。(中略)特に中学年向け「みんなの音楽」は、番組のカラー化にとめない、よそおいを新たにしていって登場いたします。従来やや高度といわれた知的理解の部分になるべくはずし、ショー形式も交えた新しい形の番組です
1973/4、 能勢協 92, 93	(前略)みんなの音楽 (中略)表現活動として、たて笛を積極的にとりあげていく考えである。番組は、まず児童たちが楽しいものとして受け入れることができるよう、愉快なおにいさんおねえさんの司会によってすすめられるが、そのつど、音楽の専門家をゲストに迎えることも予定している。なお、1 学期の基礎指導の内容は次の通り。①音符、休符の理解、②リズムパターンの記譜、③拍子の理解、④リズム譜の譜読、⑤順次進行(二度音程)をうたう、⑥フレーズの理解

上記内容より、1960 年度に「改訂指導要領による学校教育内容の移り変りに、学校放送番組も即応できるように編成され、放送時刻、種類、内容など大幅な改善」が実施され、1962 年度より「みんなの音楽」放送開始、1964 年度より「放送種目等を拡充整備し」て「再放送を全番組に実施」、1965 年度に出演者の変更、1967 年度は「新人を起用し、また演出面でも数々の新しい試みを企画」し、1968 年度に再度の出演者変更、1969 年度より「新学習指導要領への移行を考慮して番組を制作」し、1970 年度にその方針を進める、1971 年度より「みんなの音楽」カラー化およびショー形式化というような流れがわかる。また 1971 年度については「よそおいを新たに」という言葉でしか示されていないが、「NHK クロニクル」で検索をすると、1971 年 4 月 9 日(金)から出演者が松村幸子に変更となっていることがわかる(前年度までは藤井凡大が担当)。

重要なこととして、この時期においては 1958 年(以下、昭和 33 年版小学校学習指導要領)と 1968 年(以下、昭和 43 年版小学校学習指導要領)の 2 回、改訂された学習指導要領の告示が行われているということがある。それぞれ告示の翌年もしくは翌々年から番組に反映されており、番組内容の変更もそれに沿って行われていることが明記されている。

上記のことより、次節では 1960 年度、1965 年度、1971 年度という三年度を取り上げ、その変遷を分析したい。

3、『教育音楽』の「今月の学校放送」にみる各年度の番組内容変遷

本節では『教育音楽』における「今月の学校放送」に書かれている「たのしい教室(音

楽)」 「みんなの音楽」 の番組内容についてまとめ、そこから抽出した各年度における学習内容の分析を行いたい。まずは 1960 年度の内容をまとめる。番組内容のうち、学習内容については筆者が網掛けを施している。

年月, 執筆者 (前月同様の場合は省略), 頁数	番組楽曲 (1960 年度), 番組副題 (1965, 1971 年度)	番組内容
1960/4 竹内功 58, 59	6: 一学期の予告 20: 春の小川 (文部省唱歌)	春の季節の楽しさ 音楽の表現意欲を一そう高める <u>ハ長調の視唱</u>
5 月 58, 59	4: ひばり (文部省唱歌)、メヌエット (ビゼー) 18: おもちゃシンフォニー (ハイドン)	いろいろなひばりの歌を歌い旋律、リズム、拍子の違いや曲の特徴を把握させる。また、フルート、ハーブなどの楽器の種類や音色、形態に親しませる。 おもちゃの楽器の紹介から、 <u>管弦楽についての理解をいっそう深める。</u>
6 月 58, 59	1: 山の歌、山の音楽家、ベートーベンのメヌエット 15: 汽車、夜汽車 29: 金と銀 (レハール)、波とうをこえて (ローザス)	<u>ハ長調の視唱能力を養い、やわらかい発声、正しい音程とリズムで歌えるよう指導する。</u> <u>テンポと曲想表現に関心をもたせ、正しいリズム表現と、この曲に適合した歌い方を感じ取らせる。</u> <u>ワルツの感じを視聴画面から感覚的に理解させ、ワルツ演奏形態についての知識を深める。</u>
7 月 72, 73	13: アルルの女第二組曲よりメヌエット (ビゼー)、波とうをこえて (ローザス)、みなと (文部省唱歌)、山のうた (文部省唱歌)	夏の楽しい海や山の生活をえがき、音楽への学習意欲をもりたてる。夏の季節の歌をいろいろな演奏形態で、歌ったりきいたりするとともに、 <u>旋律楽器と簡単なリズム楽器で合奏してその表現技能を養う。</u> (後略)
8 月		番組お休みのため記載なし
9 月 58, 59	14: 赤とんぼ (文部省唱歌)、赤とんぼ (山田耕筰) 28: 軍隊行進曲 (シューベルト)、旧友行進曲 (タイケ)	<u>階名模唱を中心に、特にハ長調の階名視唱の基礎的な能力を養うと共に、曲想表現をくふうさせるよう指導する。</u> <u>勇壮活発な行進曲の音楽を心から味わって、楽器の音色や形態、演奏のしかたに注意させながら行進曲の形とその対照美を感覚的に理解させる。</u>
10 月 58, 59	12: 村まつり (文部省唱歌)、お祭り (外国曲)、小牧神の入場 (ピエルネ) 26: もみじ (文部省唱歌)、のぎく (下総一郎)、かねがなる (外国曲)	児童の生活に関係のある季節的な行事をとりあげ、これに関した曲を歌唱や器楽合奏などで演奏しながら、 <u>音楽的な表現技能を養う。</u> 特にリズム感を一層のばしながら、ピコロ、フルート、トランペットなどの楽器について理解を深める。 季節の話し合いから、秋の歌曲 をとりあげ、 <u>美しい発声と、レガートな歌い方など特に歌唱表現の技能を身につけさせるとともにリズム、速度、フレージングについても関心をもたせる。</u>
11 月 58, 59	19: 白鳥 (サンサーンス) 30 村の鍛冶屋 (文部省唱歌)	<u>静かでゆったりとした美しい旋律の音楽に親しませ、音楽の表わす感じを味わわせる。またチェロとフルートの音色に親しませ、これらの楽器について理解させる。</u> <u>リズムカルなこの曲を歌ったり器楽合奏をすることにより、リズム感を一そうのばしながら曲想の表現をくふうさせる。また管弦楽や、男声合唱の音楽を鑑賞して、演奏形態について理解させる。</u>
12 月 58, 59	14: かごめかごめ とおやんせ かぞえうた かぞえうた変奏曲 (琴)	日本に古くから歌われているわらべ歌を、いろいろな演奏形態できかせ、 <u>独唱、斉唱、輪唱重唱のちがいや、琴の音色、演奏法について理解させる。</u>
1 月		番組お休みのため記載なし
2 月 58, 59	8: 音楽劇「ブレーメンの音楽隊」	<u>音楽劇を鑑賞し、独唱、斉唱、合唱、独奏、合奏などの演奏形態のちがいによる表現効果を注意しながらきかせる。</u> <u>また登場する四匹の動物をバスーン、クラリネット、トランペット、ティンパニーでその特徴をあらわし、それぞれ</u>

	22: こもり歌 日本古謡ほか	の楽器について理解を深めさせる。 日本や外国の著名なこもり歌を演奏形態を変えて鑑賞させ、曲の感じや特徴をききくらべさせる。とりあげる曲は、モーツァルト、シューベルト、ブラームス、五ツ木のこもり歌など。
3月 58, 59	8: 金婚式(マリー)	この曲のテーマをクラリネット、バイオリン、木琴などできかせ、主題を口ずませながら明るく上品なこの音楽に親しませる。また楽器の分担奏によりABAの組み立てを感得させ、音楽の形式について理解させる。同時に長調と短調の感じの違いを味わわせる。最後に季節に関連した「春がくる」を輪唱で、「どこかで春が」を合唱で楽しく歌わせる。

以上、「たのしい教室(音楽)」1960 年度の内容をまとめている。同年 4 月の「今月の学校放送」の前書きより「音楽の鑑賞及び表現活動を視聴覚的方法により有機的に展開」というのが本番組のねらいであるが、音楽劇等も含めた演奏をテレビ形式で視聴させる内容が多く、特に楽器については映像も出すことによって、視覚的に楽器の理解をさせたことが推察できる。また、同年度の放送内容については「昭和 33 年版小学校学習指導要領」に基づいて、前年度より大幅に改善されたものである。同指導要領について、番組の学習内容と共通する部分に網掛けを行った上で、以下に引用したい。

(昭和 33 年版小学校学習指導要領)

「第 2 各学年の目標および内容 3, 4 年の各目標」

- (1) 静かに注意深く聞く習慣を養い、音楽的感觉を伸ばすとともに、楽器の音色、音楽の種類や演奏形態に興味をもたせる。
- (2) 歌唱技能を高めるとともに、輪唱や部分二部合唱ができるようにする。
- (3) 簡単な楽譜に親しませ、楽譜についての初歩的な理解をもたせ、読譜および記譜の基礎能力を養う。
- (4) リズム楽器および旋律楽器の演奏技能を高め、旋律楽器を加えた合奏ができるようにする。
- (5) 即興的、創造的な学習活動を通して、創造的表現の基礎能力を伸ばす。
- (6) 愛好曲を豊かにして、明るく楽しい学校生活ができるようにする。
- (1) 静かに注意深く聞く習慣を養い、音楽的感觉を伸ばすとともに、楽器の音色、音楽の種類や演奏形態にいつそう興味をもたせる。
- (2) 歌唱技能を高めて、正しい歌唱表現をさせるとともに二部合唱および部分三部合唱ができるようにする。
- (3) 楽譜についての理解を深め、読譜および記譜の基礎能力を伸ばす。
- (4) リズム楽器および旋律楽器の演奏技能を高め、正しい合奏ができるようにする。
- (5) 即興的、創造的な学習活動を通して、創造的表現の能力を伸ばす。
- (6) 愛好曲を豊かにして、明るく楽しい学校生活ができるようにする。

特に歌唱や器楽、鑑賞のねらい等の部分で番組内容と同様の内容が見られる。しかし楽譜の読譜・記譜に関することや、即興的、創造的表現についての部分は番組内容に同様のものが見られない。これらについては(特に楽譜については)教室内での学習や、教師との相互的なやり取りを含めた学習形態が効果的ということで、あまり番組に取り入れられなかったのではなかろうか。また愛好曲についても、特に番組内容として記載はない(実際には、視聴によって愛好曲が増えるであろう)。

次に 1965 年度の「みんなの音楽」について、以下に番組内容をまとめたい。

年月, 執筆者(前月同様の場合は省略), 頁数	番組楽曲(1960 年度), 番組副題(1965, 1971 年度)	番組内容
1965/4 小島明 102, 103	9, 10: 春の音楽 16, 17: オーケストラと楽器 通リゃんせ変奏曲(早川正昭作曲) 23, 24: かつこう 30, 5/1: 笛のけいこ	明るく楽しい音楽の鑑賞や歌唱の活動を通して春の季節のよるこびを高める。音楽と結びついた遊びや生活の場面を見ながら、自然のうちに音楽にとけこませ、その楽しさを味わわせるとともにこの番組についての興味と期待をもたせる。 オーケストラの演奏を聞きながらオーケストラの演奏形態のあらましについて、理解をもたせる。その演奏効果について、いろいろな楽器が用いられていること、指揮者の役割についてなど、弦管打の楽器群について、またそれぞれの個の楽器について、それらの特徴などを聞き取らせる。 二部合唱を歌う基礎技能を養い、フレーズを感覚的にとらえさせる。四小節程度の即興的なふし作りをして、創作への興味づけをする。 たて笛の基本的な奏法について、正しい理解をもたせ、その演奏技能を養う。たて笛の独奏と、たて笛の特性を生かした合奏の鑑賞をさせる。
5 月 108, 109	7, 8: エリーゼのために 14, 15: みなと 21, 22: おもちゃシンフォニー 28, 29: 木琴のけいこ	親しみのあるピアノ小品を鑑賞して、ピアノの音楽および、ピアノをひくことに興味をもたせる。ベートーベン作曲の音楽を聞いて、大作曲家ベートーベンに親しみをもたせる。 漁村や漁港の情景を見ながら「みなと」の歌詞のあらわす意味内容を感じとり、この曲に親しみをもたせる。歌唱、器楽の表現活動を通してリズム感、拍子感ならびに楽譜についての理解を深める。 おもちゃの音色を音楽の中に生かした管弦楽の演奏を視聴させ、演奏形態について、またその音楽の特徴について理解と興味を深める。各楽章を味わって聞かせ、特に拍子やリズム、速度の変化などについて感じとらせる。 木琴の基本的な奏法について正しい理解をもたせ、その演奏技能を養う。木琴の独奏と、木琴の特性を生かした合奏の鑑賞をさせる。
6 月 102, 103	4, 5: 村のかじや 11, 12: メヌエット 18, 19: さくらんぼのかくれんぼ 25, 26: アコーディオンのおけいこ	軽快なリズムにのって楽しく歌える愛唱歌をいっそう豊かにする。ととのった二部形式の構成を感覚的に理解させる。 古典的な舞曲としてのメヌエットの優雅な感じを味わわせる。フルート、ハープについて音色、楽器の形、演奏の様子などを理解させる。メヌエット以外の民族舞曲について、舞踊を見ながら鑑賞させる。 輪唱で歌う歌い方に慣れさせその楽しさを味わい、愛唱歌を豊かにする。 アコーディオンの基本的な奏法について正しい理解をもたせその演奏技能を養う。アコーディオンの独奏と、アコーディオンの特性を生かした合奏の鑑賞をさせる。
7 月 96, 97	2, 3: 汽車	汽車の歌を中心に、児童に興味のある乗り物の歌をとりあげ歌唱や器楽合奏の表現活動を通して、リズム感、速度感を養う。その音楽がもっている本来的な感じは、正しい速

	9, 10: 金と銀 16, 17: 楽しい夏	度と関係があることを感じとらせ、その曲にふさわしい速度という点について関心をもたせる。 ワルツの鑑賞を通して、音楽を聞く楽しさを感じとらせる。三つの部分にまとまったワルツについて、主題の反復、リズムや速度の変化などに関心を向け、鑑賞についての基礎的な理解や態度を養う。 楽しくのびのびとした夏の気分を音楽的な表現によっていっそうもり上げ、豊かなものにする。
8 月		
9 月 92, 93	3, 4: 秋の音楽 10, 11: ユーモレス 17, 18: 旧友 24, 25: 小さい秋みつけた	いろいろな演奏形態によって、秋の季節感をあらわした音楽に親しませる。秋の情緒をあらわしている音楽から、旋律の美しさ、おちついたリズム、速度など、音楽の要素的なものを感じとらせ、音楽全体の気分を味わわせる。 「ユーモレスク」の旋律の美しさ、音楽のまとまりとその変化などに関心をもって聞く態度を養う。三つの部分に分れた各部分のリズムや旋律奏法などの特徴を聞きとらせる。バイオリンの演奏に親しませその音色、奏法(単音、重音ピチカート)についての理解をもたせる。 「旧友」をはじめとして、行進曲の名曲を鑑賞させ、躍動的なリズムの楽しさを感じとらせる。吹奏楽の演奏を視聴させ、その演奏形態や用いられている楽器についてあらましの理解をもたせる。 歌詞や曲の感じを味わいながら心をこめて歌わせる。美しい秋の歌のレパートリーを豊かにする。
10 月 114, 115	1, 2: 軍隊行進曲 8, 9: 美しく青きドナウ 15, 16: ピチカート・ポルカ 22, 23: ガボット 29, 30: もみじ	演奏会用に作られた美しい行進曲を鑑賞させ、愛好曲をゆたかにする。勇壮で活発なリズムで展開するA部の感じと、旋律的に歌うようなB部の感じを味わって聞かせ、対照的に構成された全体のまとまりを感じとらせる。作曲者シューベルト、演奏形態(連弾)について親しみをもたせる。 合唱で美しく軽快なワルツに親しませる。ワルツ王ヨハン・シュトラウスの逸話とともにウィンナワルツの生いたち、当時のウィーンの町のようなすなどをしのばせる 身体表現と弦楽合奏の視聴を通しての舞曲「ポルカ」のリズムや速度の特徴を感じとらせる。演奏形態(弦楽合奏)およびピチカートの奏法についての理解をもたせる。 優雅で素朴な感じの古典舞曲の特徴を感じとらせ、このような感じの音楽にも興味をもたせる。ガボットの特徴ともいえるフレージングを感じとらせ、またオーボエの音色を注意深く聞きとらせる。 秋の季節の歌を独唱、せい唱合唱、器楽合奏などで鑑賞させ特に美しい曲想表現に関心をもたせる。やわらかい自然な発声、レガートな歌い方など発声や唱法についての基本的な技能を高める
11 月 42, 43	5, 6: 子犬のワルツ 12, 13: とんび 19, 20: アンビルコーラス 26, 27: 白鳥	「小犬のワルツ」の鑑賞を通して、ピアノ音楽に興味を持たせる。ピアノの詩人といわれる作曲家ショパンに親しみをもたせる 歌唱についての基礎的な技能を高め、美しく歌う曲想表現に関心をもたせる。旋律楽器(特にハーモニカ)の奏法に慣れさせ、合奏の楽しさを味わわせる。 大きな編成の力強い合唱を聞かせ、その美しさや効果について感じとらせる。有名な歌劇の中の合唱や前奏曲を鑑賞させ、歌劇について大体の理解をもたせる。 「白鳥」を聞かせ、旋律の流れ、リズムの変化、速度の感じなどからその音楽のもつ気分を感じとらせる。独奏楽器の演奏と、伴奏楽器の美しい調和を注意深く聞きとらせる。
12 月 104, 105	3, 4: 数えうた変奏曲 10, 11: かごめかごめ	原曲とその曲を変奏曲風に編曲した器楽曲や合唱を聞かせ、創造的な面白さを感じとらせる。琴、ハーパートリオ、合唱などの演奏を聞かせ、変奏曲についてのあらましの理解をもたせる 現在も歌いつがれているわらべうたにはその土地土地の子どもの生活や遊びなどが歌いこまれ、楽しい子どもの歌であることを印象づける。いろいろな地方のわらべうたを歌い、その歌の中に生きている旋法やそれぞれの地方独特の風物に親しませる。

	17, 18: 軽騎兵序曲 24, 25: たのしい合唱	「軽騎兵」序曲を聞かせ、この音楽全体としての感じや、それぞれの部分の感じの特徴などについて聞きとらせる。オーケストラの演奏を視聴させ、特にはじめに吹奏される金管、途中のソロを受けもつ木管などについて理解をもたせる。 児童に親しみの深い歌を合唱で聞かせ、合唱の楽しさ美しさを感じとらせる。合唱のいろいろな演奏形態になじませながら、合唱についての興味をいっそう深め、合唱で歌う表現意欲を高める。
1 月 110, 111	14: 冬の音楽 スケーターズワルツ(ワウトトイフェル) 21, 22: びっくりシンフォニー(ハイドン) 28, 29: 通リゃんせ(わらべうた)	冬の生活とつながりの深い音楽をとりあげ、それらの音楽にいっそうの理解と親しみをもたせる。スケーターズワルツを聞かせワルツの明るい感じを聞きとらせる。独唱、せい唱、合唱などで、季節の歌に親しませる。 「びっくりシンフォニー」の面白さや、ハイドンについての逸話に理解と親しみをもたせる。第二楽章の音楽を注意深く聞きとらせ、リズムの変化や旋律の動きから、変奏曲について興味をもたせる。 「通リゃんせ」を中心に、日本のわらべうたを聞かせ、あそびや行事にとけこんだ音楽の楽しさを感じとらせる。外国の子どもの歌とくらべて日本の子どもの歌のリズムや遊技などの特徴を感じとらせる。
2 月 100, 101	4, 5: 楽興の時 11, 12: あの町この町 18, 19: 金婚式 25, 26: 子守唄	楽興の時の鑑賞を通して、ピアノ音楽への関心をいっそう深める。この年間にとりあげたピアノ音楽や、その作曲者たちについての親しみを深める。 長調や短調、日本的な旋法などの曲の感じと、歌詞のもつ気分や情景とを味わわせながら、歌の美しさを鑑賞させる。今日の子どもの心を広くとらえているリズムミクな歌の感じと対照的に、旋律的な歌のもっている味わいを感じとらせる。 美しい小品を味わって聞かせその音楽の構成について感覚的にとらえさせる。楽器の違いによる演奏効果の感じの違いを聞きとらせ、またそれぞれの楽器について理解を深める。 日本古謡の「子もり歌」を中心に、日本の子もり歌がもっている共通の感じを感じとらせる。外国の有名な子もり歌を鑑賞させ、それらが持っている特散を感じ取らせる。子守唄を歌う音楽的な表現について、なだらかな旋律のレガートな歌い方、ゆったりとした速度などについて理解させる。
3 月 96, 97	4, 5: 音楽劇 11, 12, 18, 19: 楽しい音楽会	いろいろな音楽的表現によって演出された劇を鑑賞させ、劇と音楽との立体的な結合の楽しさを味わわせる。さまざまな演奏形態や楽器で表わされる音楽の演奏の特徴や効果、リズムカルな動き(舞踊)などを総合的に視聴させる。音楽が感情の明暗を表わしたり、それぞれの場面の情景を表わすために、どのような役割を果たしているかを理解させる。 今年度の、この番組の最終の時間にあたるので、いろいろな歌の希望音楽会として、11日、12日、いろいろな器楽曲の希望音楽会として1日、1日の二回にわたり、視聴者の皆さんのリクエストによる楽しい音楽会を開きます。(後略)

同年度の放送内容については、やはり「昭和33年版小学校学習指導要領」に基づいてい
ると考えられる。1962年度の前書きで、「楽器の種類や、楽曲の形式、楽譜の提示」を積
極的に行うという方針が示されているが、特に楽譜の提示については「たのしい教室」で
見られなかった番組内容であり、5月の「みなと」の回などで明示されている。その他、
内容の部分に網掛けで提示しているが、即興・創作に関する学習内容や、愛唱歌に関する
記述は「たのしい教室」ではなかった特徴といえる。

また1963年度の前書きで「テレビの特性をじゅうぶん生かした番組内容を編成」と記述

されているが、例えば9月の「旧友」の回では、「吹奏楽の演奏を視聴させ、その演奏形態や用いられている楽器についてあらましの理解をもたせる」との学習方法が掲載されている。これは細かいことを学ぶ前に、一度、映像を見ておおよその使用楽器等を理解した上で細かい学習に入っていくという流れであるが、まさしく映像学習の特性を活かしているということができるだろう。

更に『NHK テレビジョン学校放送』に「年間を通して学習指導要領に示された基準的なものはすべて包含」と記述されているが、学習指導要領の内容と比較すると、細かく内容を構成していることが見て取れる。以下、3,4年生で共通する部分が多い「鑑賞」の内容と比較する。3,4年生で異なる内容の部分は、かつこ書きを行っており、また矢印部分はその内容の含まれる放送日(初日のみ、佐藤の書き込み)である。

(昭和33年版小学校学習指導要領)

第2 各学年の目標および内容

2 内 容

A 鑑 賞

(1) 楽しく聞く態度を養う。

ア 明るくリズムカルな音楽のほかに、静かで美しい音楽も聞く。→9/3、ほか

イ 音楽の美しさを心から味わって聞く。→4/9、3/4

ウ 聞いた歌や音楽の主題を口ずさむ。→該当なし

(2) 静かに注意深く聞く習慣を養う。

ア 先生や友だちの歌や演奏を、静かに注意深く聞く。→該当なし

イ 放送やレコードなどの音楽を、静かに注意深く聞く。→10/22、11/26、1/21

(3) 音楽的感覚をいっそう伸ばす。

ア 音楽を聞いて、リズムの変化を感じとる。→5/21、7/9、11/26、1/21

イ 旋律のまとまりとその美しさ、および旋律の終止感をつかむ。→9/11、10/1

ウ 音楽を聞いて、和声の美しさをつかむ。→該当なし

エ 対照的な感じの音楽を比べて聞く。(長調の曲と短調の曲など。)→2/11

(4) 楽器の特徴を理解させ、その楽器の持つ特有の音色を聞き分ける能力を伸ばす。

ア フルート、クラリネットおよびトランペットの音色に親しむ。→6/11、12/17、ほか

(4年生ではア オーボエ、チェロおよび琴の音色に親しむ。)→4/16、10/22、ほか

(5) 音楽の種類および演奏形態について理解させる。

ア 声楽曲および器楽曲のいろいろな種類を、聞くことによって理解する。→5/7、11/19、ほか多数

イ 独唱，独奏，せい唱，輪唱，合唱および管弦楽などの演奏形態を，聞くことによって理解する。→10/29

(6) 愛好曲をふやす。

ア なるべく違う種類，違う演奏形態の音楽を，次の3曲を含め，年間8曲以上聞く。

「おもちゃシンフォニー」(ハイドン)，「金と銀」(レハール)，「金婚式」(マリー)

→5/21、7/9、2/18、ほか

(4年生では「白鳥」(サンサーンス)，「スケーターズワルツ」(ワルトトイフェル)，

「軍隊行進曲」(シューベルト))→10/1、11/26、1/14、ほか

上記を見ると、鑑賞の「内容」については、学習指導要領に記載のほとんどの項目を基準として内包していることがわかる。(2)アについては、テレビ番組という性質から難しいかもしれないが、(1)ウは児童の自発的な活動として期待でき、(3)ウについては直接的な記載がないだけで、11/19の回などは類似の内容が見られる。また当該学習指導要領については「第3指導計画作成および学習指導の方針 2各領域について (1)鑑賞 ウ」にて「第3学年以後，鑑賞教材などと関連して，そのつど日本および外国の名高い作曲家や演奏家についての逸話などを聞かせ，親しみをもたせるように指導することが望ましい」という記述も存在しているが、これもベートーヴェン、ヨハン・シュトラウスやショパンなど、作曲家の逸話を番組内容として含めることで、要件として満たしていたようだ。

最後に、1971年度の「みんなの音楽」番組内容について、まとめた表を掲載する。

年月，執筆 者（前月 同様の 場合は 省略）， 頁数	番組楽曲(1960年度)， 番組副題(1965, 1971年度)	番組内容
1971/4 竹内功 54, 55	9, 10, 16 教材「春のうた」(メンデルスゾーン) 23, 24 たのしいリズムⅠ 30, 5/1 たのしいリズムⅡ	季節の歌や音楽をたのしく歌ったり鑑賞したりして、特に音楽のリズムのたのしさを味わわせる。 三回にわたり、リズム中心の基礎指導を行なう。ここでは拍を打ちながら、いろいろな音の長さを正しく表現することを身につけさせる 前回につづいてリズム中心の基礎指導。また、いろいろな拍子(二拍子、四拍子、六拍子)の成り立ちを知らせ、リズムと拍子との関係を理解させる。
5月 46, 47	7, 8 たのしいリズム 14, 15 笛をふこうⅠ 21, 24 笛をふこうⅡ 28, 29 笛のなかま	前回につづいて、正しいリズム感覚を身につけるための学習 特に、旋律の特徴が、リズム型に負うことの大きいことを知らせる。 三回にわたりたて笛の基礎的な奏法や、笛のなかまを紹介していくが、初回は、たて笛の音色に興味をもたせ、奏法の基礎となる姿勢、呼吸法、タンギングについて知らせる。教材「ソラシを吹こう」 前回につづき、ソ、ラ、シの三つの吹き方に、ド、レの2音を加えて練習する。またソ、ラ、シ、ド、レの五つの音でできているカノンや2重奏をきいて、笛に対する興味を高める。教材「いなかのかえる」 いろいろな笛の種類をしらせその形や音色演奏法を視聴させる。取り上げる楽器はフルート、クラリネット、バスーンな

		ど。教材「アルルの女」よりメヌエット他
6 月 94, 95	4, 5 ピアノの音楽 11, 12 合唱しよう 1 18, 19 合唱しよう 2 25, 26 バイオリンとチェロ	ピアノの構造や、演奏法を知らせ、ピアノの表現力の豊かさをききとらせる。教材「軍隊行進曲」ほか 二回にわたって基礎指導の面から合唱を取りあげる。この回は、旋律とリズムの結びつきを理解させ、オスティナートや輪幅のかたちから、合唱に興味を持たせる。教材「さあ笑おう」 前回にひきつづき、合唱に興味をもたせるために終止形合唱によって終止感を養いながら、和声的合唱に親しませる。教材「まわれ輪になって」 弦楽器の音色と演奏法に親しませる。できれば四つの弦楽器の合奏もとり入れたい。教材「動物の謝肉祭から白鳥」
7 月 50, 51	2, 3 世界の音楽(1 9, 10 たのしい輪唱 16, 17 たのしい音楽会	最近来日した外国の児童合唱団の演奏のなかから、特に各国の民謡を中心に構成し、その特徴を感じとらせる。ハンガリー民謡「かえるのうた」国立ハンガリー少年少女合唱団、オーストリア民謡「ウィーンの森のうた」ウィーンの森少年合唱団ほか、オーストラリア少年合唱団、スイス・ケルンザール少年少女合唱団の演奏 輪唱のもつカノンの面白さを味わわせながら、輪唱をたのしむとともに、楽器によるふしの迫りかけもとりあげ、リズムカノンのたのしさをを感じとらせる。教材「ヤッホーヨッホー」「おいかけっここのうた」 一学期のまとめとして、季節にちなんだ山の歌、海の歌をあつめてのたのしい音楽会。愛唱歌をふやすとともに、夏休みの生活への期待をもたせたい。
8 月		番組休みのため記載なし
9 月 能勢協 56, 57	3, 4, 10, 11 秋のうた 17, 18, 25 笛をふこう 3	秋の季節感を音楽の中にみつけること、秋をうたった曲「もみじ」「赤とんぼ」「まっかな秋」などを聞くことを通して、音楽の楽しさを味わわせる。新しい愛唱歌「リズムの四季」から「おちばのワルツ」も聞く。 一学期に二回にわたって放送した笛を吹こうの三回目。奏法の理解をさらに深め、たて笛の二重奏にしたい。二重奏の教材「冬よさよなら」「一日の終わり」「月の光」「耳をすまそう」の演奏をしてみる。
10 月 102, 103	1, 2 打楽器のいろいろ 8, 9 木琴とアコーディオン 16, 17 世界の音楽 22, 23 合奏しよう 1	茶ワンを箸で叩いて、「ごはん——早く!」などという子はこのごろ少なくなったのではないだろうか。何にしても、こどもの、打つ、叩くということはそのへんから始まるような気がする。どんな茶わんがいい音か。どのへんをどう叩くのがいいか。箸はどう持てばいいか、茶わんからコップへ、コップから鍋へそして鍋から大鍋、いやティンパニーへ、つまり、打楽器の話でした。それにしても、ラテン音楽の打楽器はおもしろい。キハダなんて、圧倒的におもしろい。あれひとつで二十分間番組をつくりたいがそうもいかない。とにかく、コ・キカーン(キハダの音)の歯切れよさで、打楽器にしたい。 木琴とアコーディオン。これまた結構! しかし打楽器とちがって音程を伴っているから、チョッとむずかしいぞ、さあ、やってみよう。まずはじめに気をつけないといけないのは……基礎的なことがわかったら、あとは練習だ。いくらやっても、やりたりることなんてない。そしてきょうのさいごは、アコーディオンの快い音色を聞こう。甘く、軽快で、浮き浮きするような。 日本の児童合唱はすばらしい。戦前とは比べものにならないし、10 年前にだって想像できなかったぐらい。先日も四つの児童合唱団の合同演奏会を聞いてそう思った。しかし、外国の児童合唱団はどうだろう。うまい、へたということばは使いたくないとしたら何と表現したらいいのだろう。やはり落ち着くところは音楽性か。しかし、それはおとなのことばであり、おとなの感じ方かもしれない。 日本のこどもに、外国の児童合唱をきかせてやりたい。たのしいとかおもしろいとか、うまい、さらにはへたというようなことばさえ含めて、ことばにならない何ものかを感じとってくれば幸いである。 たて笛と打楽器で合奏の基礎。曲はテキストにある「マーチ」と「キラキラ星」

	29, 30 合奏しよう 2	前回の発展として、パートをふやしていく。曲と演奏型体の組み合わせは、番組でやる少くとも何倍かのかたちがあるはず。厳密にはそれもアレンジ。教室の先生方が、どんどんアレンジャーになっていただきたい。
11 月 96, 97	5, 6 オーケストラ 12, 13 たのしい合唱 26, 27 合奏のくふう	オーケストラのしくみや、使われる楽器を知らせ、オーケストラの音楽に ^{した} しませる。「大きくなったらやってみよう!」「ティンパニーはカッコいいな!」「ハープのお姉さんみたいにきれいに弾けるかな」などという声が聞かれるだろうか。最近、大学のグリークラブの人气が落ち、かわりにフォークグループが大変な盛況だということを聞いた。一時的なブームとみることもできるだろうが、コーラスの楽しみということからすると、若者たちはフォークを選ぶのがむしろ当然かもしれない。学校でも「うたえばたのし」のことをぜひやっていただきたい。放送はもちろん。リズム伴奏やオスティナートの組み合わせが合奏をゆたかにすることをわからせる。「茶つみ」の一拍目、「せっせっせ」のときの「トン、なつもちーかづく……」とやるあのトンのところを楽器でやるなんてのは簡単だ。いろんな楽器で、いろんな和音でやるとたのしくなってくる。
12 月 52, 53	3, 4 マーチとワルツ 10, 11 ラッパのなかま 1, 18, 24 たのしい音楽会	マーチとワルツの違い、つまり二拍子と三拍子のちがいが、どんなに音楽の性格を決定するものかということに気づかせる。すべての拍子は、この二つか、あるいはその複合型に集約される。しかもまったく性格を異にするという意味では、父親と母親みたいなものだといえることが言えないだろうか。複合的なリズムはその子どもだ。金管楽器に ^{した} しませることが、この番組のねらい。キラキラした音色を、あのキラキラした楽器のクローズアップとともに好きになってほしい。もう少し大きくなったら、あのトランペットが吹きたい。ぼくはトロンボーンがいいなという男の子が出てくれば・・・担当者はそう思っている。やかましいからやめなさいなどとお母さん方、言わないでください。ここに一枚のプログラムがある。秋の学校音楽会、あけてみると実にうまく出来ている。合唱のつぎには合奏、合奏が二つ続いたら、こんどはソロ、その次はまた合唱、高学年のむずかしいうたの次にかわいい一年生のうたというふうに、楽器の出し入れのことも考えたり、長いうたの次には短いのもってきたり。テレビだって同じですよ。「たのしい音楽会」の構成をこどもにやらせたらどうだろう。「音楽会」を演出することは、音楽を演奏するようなものだと思う。
1 月 98, 99p	8, 14 冬のうた 21, 22 リズムにあわせて 28, 29 オーケストラ (2)	おうちやすゆき作詞、服部公一作曲「リズムの四季」から「木枯のマーチ」(みんなの音楽愛唱歌)をはじめ、冬をテーマにした楽しいうたをいろいろうたう。音楽のリズムに合わせて、手拍子をうったり、身体反応をして、リズムの楽しさを味わわせる。教材はすべてこの番組の愛唱歌。耳をすまそう、まわれ輪になって、マーチ、いなかの蛙、あおいゆめのうた。あおいゆめのうたのリズム打ちはちょっとむずかしい。手だけでなく、足も、そして、からだ全体を。冬だから温かくなっている。二学期にもあったオーケストラの二回目、三つの鑑賞曲を予定している。スッペの軽騎兵序、ワルトイフェルのスケターズワルツ、そして、愛唱歌「リズムの四季」をオーケストラでやるとどうなるか。
2 月 80, 81	2, 5, 22 みんなの音楽	中山知子作詞、越部信義作曲合唱バラエティー「ほらほらコンサート」を鑑賞する。出演は杉並児童合唱団。七つの合唱曲をバラエティー風につないだものだが、独唱合唱はもちろんのこと、伴奏もピアノをのぞいてはギター、たて笛、ハーモニカ打楽器など、すべて合唱団員によって演奏される。
3 月 42, 43	3, 4 わらべうた 10, 11 日本の楽器 17, 18 世界の音楽 3	わらべうたをとおして、ことばと結びついた日本の旋律に ^{した} しませる。短いことばで、児童に自由にふしづけさせてみる。そして、それを編曲したものを聞かせる。外国の民謡と比較することによって、日本の旋律の特徴を感じとらせる。また、わらべうたにもとづく作品を鑑賞する。日ごろしたしむ機会の少ない日本の伝統楽器を紹介し、児童に日本の楽器に対する興味と関心をもたせる。来日した外国の児童合唱団の演奏を聞き、民族性に根ざした

		音楽にふれさせ、音楽的経験をゆたかにさせる。予定としては「木の十字架少年合唱団」と「ウィーンの森少年合唱団」
--	--	--

1971年度の「みんなの音楽」の番組内容の基となったのは、第2節より昭和43年版小学校学習指導要領である。『今日いう音楽』1969年4月の前書きにもあるが、この版の音楽科要領においては、昭和33年版小学校学習指導要領と比較して「基礎領域」が加わったことが最も大きな改訂である。以下に4年生の「基礎領域内容」を引用掲載したい。

(昭和43年版小学校学習指導要領)

「2内容 A基礎 4年生」

(1) リズムに関する次の事項を指導する。

アリズムフレーズの拍の流れを感じとりながら、リズム唱やリズム打ちをしたり、それを記譜したりすること。

イリズム譜を見て、リズム唱やリズム奏をすること。

ウ二拍子系の拍子と三拍子系の拍子の違いやリズムの変化を聞き分けること。

(2) 旋律に関する次の事項を指導する。

ア4小節程度の旋律を聞いて、階名唱したり、楽器で演奏したり、記譜したりすること。

イハ長調、イ短調およびそれらと同じ調号で書かれた日本旋法の旋律を視唱・視奏すること。また、視唱・視奏した旋律を写譜すること。

ウ長調、短調、日本旋法の旋律を聞き分けること。

エ旋律のまとまりや、同じ旋律、似た旋律、違う旋律、曲の山などを感じとること。

(3) 和声に関する次の事項を指導する。

ア長調および短調のⅠ、Ⅳ、Ⅴの和音を聞き分けたり、分散和音唱したり、単音抽出唱したり、和音奏したりすること。

イ長調および短調のⅠ、Ⅳ、Ⅴの和音による和声進行の聞きとりをすること。また、終止形合唱・合奏をすること。

(4) 次の音符、休符、記号等の呼び方や意味を、歌ったり、演奏したり、書いたりすることを通して理解させる。

(5) また、音名、音階、主音の意味について理解させる。

このうち、番組内容として大きく反映されているのは(1)だけで、4月から5月にかけての3回シリーズとして扱われている(網掛けにて示している)。ただし、(2)ウについては3/3の回で鑑賞として実施できるような構成になっていたり、また(3)イなども6/18の回で内容として扱われている。これは「従来やや高度といわれた知的理解の部分なるべくはずし、ショー形式も交えた新しい形の番組」を制作した結果、このような部分的な扱

いになったとみなせるだろう。また、番組内容の部分に網掛けで示したが、「たのしむ、おもしろい」「親しませる」ということが頻出しており、これも「ショー形式を交えた新しい形」の成果といえるのではないか。ではこのショー形式とは何か。

第1節で示した番組HPにある4分程度の動画は、白黒ではあるものの、出演者が松村幸子であるため、番組に表示されている副題をNHKクロニクルで検索した結果、1971年度もしくは1972年度の「ピアノの音楽」の回と推察できる。以下、冒頭部分の松村のセリフを書き起こす。

松村：みなさんこんにちは、今日はピアノの音楽です。ピアノを色々な方向から眺めてみたいと思います。ピアノの音を出すには・・・、（鍵盤を押して）ここを叩かなければなりません。とすると、ピアノって太鼓なんかの打楽器の仲間かしらね。みんなはどう思う？打楽器だと思う？ちょっとわからなくなっちゃったから、ピアノの先生に習ってくるわね。

（場面転換し、松村とピアノの先生のやり取りにてピアノの説明が行われる）

この冒頭部分よりこの回の番組は、松村が視聴者の児童たちにも呼び掛ける形式で内容が進んでいっていることがわかる。また佐藤の個人保存動画として、1971年度5月14日放送「笛をふこう 1」の冒頭および最後の楽曲からフィナーレの部分のみ映像が存在する。こちらについても以下に松村の冒頭のセリフを書き起こしたい。

皆さんこんにちは、今日のみんなの音楽は、笛を吹こうの一回目です。3年生のお友達はもう学校で笛習ったかしら？今日はお姉さんと一緒に笛を練習しましょうね。

（笛の講師とのやり取りに入っていく）

こちらの回についても、まずは教室の児童に呼びかけをし、自然な形で学習へと移行している。このような、呼びかけ形式での音楽科学校放送は、後年1980年代の音楽科学校放送でも多く見られるものであるが（佐藤〔2022〕）、上記分析より既にこの「みんなの音楽」で「ショー形式」として実施されていたと考えることができるだろう。

4. まとめ

以上、本論考では「たのしい教室(音楽)」および「みんなの音楽」を題材とし、1960年代から70年代初頭における小学校中学年の音楽科に関するNHK学校放送の内容変遷を分析した。特に番組内容については、60, 65, 71年度の三年度分を学習指導要領との比較を行う

形で分析したが、それぞれ以下のことが結論として言える。

60 年度「たのしい教室(音楽)」については、当時の学習指導要領における歌唱や器楽、鑑賞のねらい等の部分で番組と同様の内容が見られる。しかし学習指導要領における楽譜の読譜・記譜に関することや、即興的、創造的表現についての部分は番組内容に同様のものが見られず、放送回数の少なさも相俟って、番組内容を厳選していた事情が推察できる。

65 年度「みんなの音楽」については、「年間を通して学習指導要領に示された基準的なものはすべて包含」という記述の通り、学習指導要領の内容を細かく番組内容として反映させている。しかし 71 年度になると、学習指導要領で示された学習内容が増加したということもあり、必ずしも内容をすべて含ませることはせず、むしろ「たのしむ、おもしろい」「親しませる」ということがキーワードとなっている。この結果、学校放送音楽科の役割は、より副次的な、児童に音楽への興味を持たせ、音楽の楽しさを感じさせるという側面が強くなってきたのではないかと推察できる。

今回の分析においては表一覧としてまとめた番組内容と学習指導要領との比較を行うことで、推察が多くはなってしまうが、1960 年代から 70 年代初頭における小学校中学年の音楽科に関する NHK 学校放送の内容変遷についてまとめることができた。今後の課題として、例えば当時の視聴記録等、関連の資料を更に収集、分析することにより、当時の学校放送の役割や位置づけ、またより詳細な内容を探っていきたい。

¹ https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009042387_00000

² https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009042420_00000

³ <https://www.nhk.or.jp/archives/chronicle/search/?keyword=%E3%81%BF%E3%82%93%E3%81%AA%E3%81%AE%E9%9F%B3%E6%A5%BD>

⁴ 『NHK テレビジョン 学校放送 小学校中学年 昭和 40 年度 1 学期』 pp. 34-41

引用・参考文献

佐藤〔2022〕音楽科の学校放送における制作背景と実践内容：「ワンツー・どん」と「うたって・ゴー」にみる「遊び」, 音楽学習研究 = Research on music learning : 音楽学習学会紀要 / 『音楽学習研究』編集委員会 編 (18) pp. 19-28.

佐藤〔2023〕1959-73 年における小学校低学年向けテレビ学校放送番組の分析：『教育音楽』を基にして, 志學館大学教職センター紀要 (8) pp. 27-34.

[The Transition of TV Educational Music Programs for Middle Grades of Elementary School Students in the 1960s: Focusing on Two programs of NHK]

[SATO, Keiji 鹿児島国際大学福祉社会学部准教授・音楽教育学専攻]